

このところ毎年新聞、テレビ等の報道ですっかりその名前も有名になった「ブルセラ症」ですが、誤った認識や誤解も多く、取り上げ方も慎重に扱うべき疾病です。

ブルセラ症は、Brucella族の細菌でもたらされる人獣共通感染症ですが、わが国では家畜の防疫が進んでおり、牛や綿山羊、豚などから感染するタイプのもは、近年出たはいません。農業主体の国で、家畜依存性が高く、衛生管理の行き届いていない海外の国などで、管理がずさんなミルクやチーズなどの乳製品を摂取することで感染します。

しかし、近年わが国で問題として取り上げているのが、Brucella canisという病原体により引き起こされるブルセラ症で、主としてイヌを介して感染する病原体によるものです。

一昨年のお阪のイヌの大量飼育場の事例、あるいは昨年のお愛知県のイヌの繁殖場における人体感染事例、さらには今回の千葉・東京におけるペットレンタル業の集団感染事例においては、いずれもBrucella canisによる感染事例です。

ペットに関してはしっかりとしたブルセラ症の防疫体制がないため、犬から感染するBrucella canisは、繁殖のため多頭飼育されている施設などで集団感染が起り、現実の社会問題となりつつある人獣共通感染症です。

いったん感染すると、白血球に取り込まれても死滅せずに生き残り、終生持続感染を繰り返すので、管理が非常に大変な病原体です。

Brucella canisの感染は、保菌している犬の発情期の出血や、流産した悪露などから感染します。このときに犬自身が処理しようとして舐めた口の周囲にも多くの菌が付着しています。これを吸引することで感染しますが、Brucella canisの病原性は低いため、感染したヒトの状態により、症状の度合いは様々です。

ブルセラ症は、あらゆる臓器に感染を起こします。発熱(数週間～数カ月続くことがある)、発汗、疲労、体重減少、うつ状態などの症状や、リンパ節腫脹、肝脾腫大がみられます。腸骨坐骨関節炎、膝および肘関節炎、椎間板炎、骨髓炎、滑膜包炎などは、最もよくみられる合併症です。男性の精巣炎もよくみられる症状のひとつです。頻度は低いですが、心内膜炎を併発して、死に至ることもあります。

イヌではほとんど症状はみられませんが、メスでは妊娠45～55日頃に死流産、オスでは精巣、精巣上体、前立腺の炎症や腫脹を示ことがあります。すべてのイヌにみられるわけはありません。

メスの流産時の悪露や、発情期の出血や分泌物には、非常に多くのブルセラ菌が見られます。このため、動物病院関係者、飼い主、繁殖家などに感染する機会が多く、注意が必要です。

尿中にも病原体を排出しますが、これはメスよりもオスのほうが数倍多くの菌を排出します。

ヒトへの感染は、主に目、鼻、口腔の粘膜からの吸引によるものです。

ブルセラ症を予防するためには、海外旅行中は、殺菌されていないミルク・チーズ・アイス・クリームなどを食べないようにしましょう。

現在国内で問題となっている、イヌから感染する*Brucella canis*については、イヌ同士は交配や同居などで、比較的容易に感染しますが、イヌが感染してもヒトは感染しないことが多いようです。ブルセラ症に感染するためにはブルセラ菌を10～100個ほど吸引する必要があります。しかしながら、感染したイヌの感染源となる流産時の悪露や、発情期の出血や分泌物、精液などに一般の人々は接触の機会がほとんどないからです。

しかし、数週間にわたって感染力をもっていますから、こういった機会がある方には注意が必要です。マスク、ゴーグル、ゴム手袋などで、防御することが必要です。また癌患者・HIV感染者・臓器移植患者などで免疫が抑制されている人々は、*Brucella canis*に感染しているイヌと接触してはいけません。

何よりも、子供をとる計画をされたら、動物病院で、ブルセラ症に感染しているか検査をしてもらうことが賢明です。

もし不幸にも、ご自身の飼い犬がブルセラ症に感染していたら、獣医師の指導の下で、適切な抗生物質の投与が必要となります。ブルセラ菌は、細胞内寄生体なので、抗生物質の効くタイミングが限られています。そのため複数の抗生物質を長期間投与する必要があります。

一度ブルセラ症に感染した犬は、オスメスともに繁殖に供するのは止めましょう。押さえ込んでいたブルセラ菌が、再度増殖して感染機会ができてしまうかもしれません。

また、ご自身への感染も、可能性は低いものの、ないとは言えません。病院で、飼い犬がブルセラ症に感染していることを告げて、自分自身がブルセラ症に感染していないか調べてもらいましょう。

適切な治療と、節度ある飼養管理で、イヌのブルセラ症はコントロール可能な病気です。過度の心配やイヌの処分などは考えずに、まずは信頼できる獣医師に相談してみてください。